会議要録

会　議　名	第１回 小中学生海外派遣事業委託 事業候補者選考委員会
開 催 日 時	令和元年５月 20 日（月曜日）午前 11 時 00 分から 12 時 00 分まで
開 催 場 所	区役所７階　教育委員会室
委　　員	（出席者）福井正仁委員、小林千春委員、松田芳明委員、 篠﨑玲子委員 （欠席者）松浦正和委員、堀二三雄委員
事　務　局	下橋良平（指導主事）、増岡文也（指導支援係）
傍　聴　者	なし
会 議 次 第	１　開会 ２　選考委員委嘱 ３　選考委員紹介 ４　委員長選出 ５　副委員長選出 ６　審議事項 （１）選考日程について （２）募集要項及び選考方法について （３）審査基準について ７　その他 ８　次回の日程等について ９　閉会
配 付 資 料	［席上配付］ 次第 資料１　小中学生海外派遣事業委託事業候補者選考委員会設置要綱 資料２　小中学生海外派遣事業委託事業候補者選考委員会委員名簿 資料３　選考日程（案） 資料４　小中学生海外派遣事業委託事業候補者募集要項（案） 資料５　選考方法（案） 資料６　審査基準（案） 資料６　小中学生海外派遣事業委託事業候補者審査基準「一次審査」採点表（案） 資料６小中学生海外派遣事業委託事業候補者審査基準「二次審査」採点表（案）

会議の結果及び主要な発言	
	【委員長、副委員長の互選】 ・ 互選により、委員長は福井委員を選出した。 ・ 委員長の指名により、副委員長には堀委員を選出した。 **【選考日程】** 質疑なし **【募集要項及び選考方法】** **◆仕様書について**
委員	・ ４業務内容、(9)ホストファミリーの選定基準について、食物アレルギーの有無を加筆したほうが良いのではないか。
事務局	⇒ 食物アレルギーの有無について選定基準に加筆する。 **【審査基準】** **◆二次審査について**
委員	・ 一次審査の審査内容を２次審査でも同じ内容で聞くということは審査を行う上で妥当か。
委員	・ 紙面だけでは読み取れないことについて二次審査で聞くのであれば同じ内容でもいいと思うが、それ以上に大事な内容があれば二次審査の内容に加えてもよいのではないか。
事務局	⇒二次審査の内容については同じことでも、一次審査よりも詳しく聞けるように加筆する。

会議要録

会　議　名	第２回小中学生海外派遣事業委託 事業候補者選考委員会
開催日時	令和元年６月 17 日（月曜日）午後５時 30 分から６時 30 分まで
開催場所	区役所９階　915 会議室
委　　員	（出席者）福井正仁委員、松浦正和委員、小林千春委員、 堀二三雄委員、松田芳明委員、篠﨑玲子委員
事　務　局	下橋良平（指導主事）、増岡文也（指導支援係）
傍　聴　者	なし
会議次第	１　開会 ２　資料説明 ３　審議事項 （１）　一次審査集計の評価及び一次審査通過者について（書類審査） （２）　二次審査について（プレゼンテーション） ４　その他 ５　閉会
配付資料	［席上配付］ 資料 No.１　第１回選考委員会議要録 資料 No.２　第一次審査結果表 別紙　事務局採点基準表 資料 No.３　二次審査 採点表 資料 No.４　二次審査タイムスケジュール（案）

会議の結果及び主要な発言	
事務局	**【資料説明】** ・第一回選考委員会の結果を踏まえて修正した部分の確認
事務局	**【審議事項】** **◆一次審査集計の評価及び一次審査通過者について** ・応募事業者２者が企画提案を行っている。 ・①者は区外と区内の協働事業体であるため、一次評価合計点の５％を加点、②者は国のワーク・ライフ・バランス推進認定企業であるため、一次評価合計点の５％を加点となる。 ・①者、②者とも旅行業を主業務とし、小中学生海外派遣事業に類似した業務を行っており、十分な実績があると判断した。 ・見積額については、今年度の契約金額を基準とし、６段階に区分した。
委員 事務局	見積金額の違いで大きな差は具体的にどのあたりにあるか。 →航空運賃で大きな差が出ている。
委員 事務局	・区外と区内の協働事業体とは区外の事業者が区内の事業者と協働するという認識でよいか。 →正しい
委員 事務局	・①者はワーク・ライフ・バランスの認定は受けていないのか？ →港区の定めるワーク・ライフ・バランス推進企業の評価条件にはあてはめるものがなかった。
委員 事務局	・見積書の金額の内訳について明らかなる間違いがある場合、修正するべきか、そのままでプレゼンテーションの質疑応答の際に聞くべきか。 →プロポーザルの所管課に確認を行い、修正が可能であるのならば、プレゼンテーションまでに修正を行ってもらう。
委員	・緊急時対応・危機管理について、②者のほうが具体的に緊急時の連絡先が記されていた点はとても良い。①者は１年後の航空機の仮の手配ができている点は、来年のオリンピック・パラリンピックの時期を考えると安心できる。①者②者ともに小中学生に対する配慮の点がもう少し考えていてもよかったと思った。
委員	・②者についてはパースでの大学との体験プログラムを考えている点が良い。①者についてはオリンピック・パラリンピック教育を活かしている点が良かった。
委員	・ 緊急時の対応、個人情報保護の記載が②者が細かく記載されていた。
委員	・小中学生への配慮の点で、②者よりも①者の方が現状を把握できていて安心できる。

委員	・本事業への基本理念の理解が①者の方が高く、②者に関しては現地で起こりうるトラブルへの対応ができるかどうか不安が残った。
委員長	・一次審査については①者②者とも拮抗しているため、両者を一次審査通過者としたいがいかがか。 一同賛成
委員長	・協議の結果、一次審査通過者は①者,②者とする。
	◆二次審査について（プレゼンテーション）
事務局	・第三回の選考会は午前 9 時 00 分から開始し、10 分ほど審査の進め方を確認し、その後事業者が入室する。一者あたり 5 分間の準備時間の後、10 分のプレゼンテーションと 15 分の質疑応答をし、事業者が退出した後、2 事業者が入室し、同様の時間管理でプレゼンテーションと質疑応答を行い、10 分間の採点時間を設け、集計結果及び委員講評の内容を踏まえて、最終的に事業候補者を決定する予定。
委員 事務局	・プレゼンテーションの方法はどのように行うか。 →「企画提案書」についてパソコン及びプロジェクターを用いて説明してもらう。必要がなければ紙のみでの説明を可とする。
委員 事務局	・プレゼンテーションの際に配る資料に制限はあるか。 →一次審査時に提出した「企画提案書」を原則として紙資料とするが、「企画提案書」の内容から抜粋したプレゼンテーション用資料の追加配布は可能としている。
委員 事務局	・一次審査結果通知の際に、二次のプレゼンテーション時にどのような観点で審査していくかは事前に伝えるべきではないか。 →通知時に大まかな審査項目について伝える。
委員	・児童・生徒の派遣理由だけでなく引率教諭の派遣理由についても質問したい。
委員	・想定されるトラブルが発生したときの対応例について①者②者ともに同じ質問をしたい。
	第 3 回の選考委員会は令和元年 6 月 24 日（月）の午前 9 時から午前 10 時 50 分で実施する。

会議要録

会　議　名	第３回小中学生海外派遣事業委託 事業候補者選考委員会
開 催 日 時	令和元年 6 月 24 日（月曜日）午前 9 時から 10 時 50 分まで
開 催 場 所	区役所７階　教育委員会室
委　　員	（出席者）福井正仁委員、小林千春委員、松浦正和委員 堀二三雄委員、松田芳明委員、篠﨑玲子委員
事　務　局	下橋良平（指導主事）、増岡文也（指導支援係）
傍　聴　者	なし
会 議 次 第	１　開会 ２　資料説明 ３　二次審査 ・ プレゼンテーション ・ 質疑応答 ・ 採点 ４　採点結果集計 ５　審査講評 ６　事業候補者の決定 ７　その他 ８　閉会
配 付 資 料	［席上配付］ 資料 No. 1　　第二回選考委員会会議要録 資料 No. 2　　二次審査のタイムスケジュール 資料 No. 3　　一次審査結果表 資料 No. 4　　二次審査採点表

会議の結果及び主要な発言	
事業者①	**【1　開会】** **【2　資料説明】** **【3　二次審査】** **＜応募事業者①のプレゼンテーション＞** **本事業について（基本理念）** 港区学校教育推進計画を理解、共感し、事業に関わる全ての方と線密な連携を取り、本事業の目的達成のお手伝いをする。 過去の実績や、経験を生かしながら、本事業がより良くなるように努めたい。 オリンピック・パラリンピック教育の連動を活用し、未来へつなぐ意識と過去から学ぶ意識を醸成するのみならず、過去の派遣団同士のコミュニティを形成し、学習効果の継続の解決に寄与していく。 **事業の企画提案内容について** 派遣先に関して小学校はメルボルン、中学校はパースを提案する。過去の派遣先と同じになるが、実績があるからこそ緊急時対応、現地校のスクールカレンダー等総合評価から本事業の目的を達成させるためにオーストラリアを提案する。 現地校についても実績があるからこそできる対応が様々あることから例年と同じ現地校を提案する。 見学学習については、小学校は世界でも有数のメルボルン大学を訪れることで、将来に向けた英語学習の意欲を駆りたてる。中学校に関しては、ワイルドライフパークでのイングリッシュツアーはすべてが英語でのやり取りとなり、これまでの学習の成果を発揮する機会を助成する。 ホストファミリーの選出にあたっては、１０年以上依頼をしている現地会社と連携し、現地校に任せることなく、日本にいるスタッフが現地オーストラリアを訪れ、各家庭にインタビューと書類審査、面談を行い選出している。 小学生と中学生に対する配慮については、考え方が異なるため、それぞれの配慮が必要と考える。特に小学生については、コミュニケーションの進捗についての配慮、中学生については、この派遣での経験が将来にどのように生かすことができるかを考えさせる配慮が必要となる。共通しての配慮としては、港区の代表であることの意識、後輩への橋渡しをスムーズに行えるようなプログラムの作成ができるかというところに配慮していく。 **事業実施までのスケジュールについて** スケジュールについては、過去の意見を活かし、研修会の改善検討資料とすること、事前事後研修で生徒の発見を促し、自身の目指すグローバル人材像を早期に描かせること、実施までに起きた事象は即座に課題解決していく。実施時期については協議のうえ柔軟に対応していく。 小学生コースの旅程については、二日目のメルボルン到着から半日市内観光を行う。二日目の午後から八日目まで現地学習を行う。 中学生コースの旅程については、二日目から八日目まで現地学習を行う。九日目に、ワイルドライフパークにて市内観光を行う。 **緊急時の対応・危機管理について** 緊急時の対応については現地体制の充実だけでなく、これまでの実績か

	ら対応できることが多くあり、特に生徒に多く発生するのはけがによる通院であるが、即座に対応できるよう、緊急対応な病院をすでに定め、本事業の訪問する期間を病院に伝え、万全な体制を構築している。 **＜応募事業者①の質疑応答＞**
A 委員 事業者①	これまでの派遣団の成果を踏まえて、総合交流についての考えを聞きたい ⇒オリンピックを通して、同じ会話を今年度行く派遣団と来年度予定されている派遣団にさせることで、コミュニティの形成を図っていきたい。
B 委員 事業者①	オリンピック教育について、大会が開催される来年度以降をどのように考えているのか。 ⇒大会が終わっても、スポーツ教育の観点からオリンピック教育に通ずる経験をできる
B 委員 事業者①	海外派遣は子どもたちの研修であると同時に教員にとっての研修でなければならないがそこについての考えを聞きたい。 ⇒研修の専門会社を派遣して、教育の観点から何をすべきかの気づきにつなげていく。
C 委員 事業者①	過去に緊急搬送をされた経験はあるのか、その際の対応としてはだれが対応するのか？ ⇒昨年度も搬送したケースがあり、その際には引率教員、添乗員、現地のコーディネーターの３名で対応した。
D 委員 事業者①	アンケートを基に実際に改善した例を一つ上げてください ⇒ホームステイについて、例年のスケジュールより早くマッチングをすることでより良いホームステイ先を選ぶことができるようになった。
E 委員 事業者①	小中学生の体験プログラムについて、より具体的にどのようなことを育成できるかを教えていただきたい。 ⇒通訳を入れずに英語のみの会話で、どれだけの会話ができるのかの英語力の醸成と、英語をつかって外国で活躍したいという力を醸成できると考えている。
F 委員 事業者①	引率教員のすべてが英語に堪能というわけではないが、そのあたりの危機管理対応についてどのように考えるか ⇒現地校であれば各校に一人のコーディネーターを配置し、英語での緊急時対応をし、学校が終わった後のホームステイ先のトラブルについては緊急連絡網を配り、２４時間体制で添乗員コーディネーターと対応することで、教員への負担をなるべくなくす。
A 委員 事業者①	小学校のメルボルン大学の見学に比べると、中学生のワイルドライフパークでの見学学習はただの観光になってしまう気がしてしまうが、どのように考えているのか。 ⇒代表的な訪問学習のみではなく訪問すべての個所で、何でここに学びに来たのかということの意識醸成を事前研修から行うことで課題について改善していきたい。 **＜①事業者退室＞**

事業者②	**〈応募事業者②のプレゼンテーション＞** **本事業について（基本理念）** 日本各地で年間約 178 件、7,000 名の海外派遣を手伝っている。 英語力において求められる運用できる力を座学のみならず、ホームステイなどの体験を通し、課題を解決していく中で英語スキルを身に着けることを目的とする。 事前研修での中学生に対して、都内で学ぶ外国人留学生との事前交流を設け、日本と世界の違い知り、英語を学ぶ目的を明確にしていく。 また、在外オフィス、留学手配会社、政府観光局が三位一体となって現地のサポート体制を構築する。 **事業の企画提案内容について** 派遣先についてはオーストラリアとし、小学生はメルボルン、中学生はパースを提案する。選定の理由については、治安が良く医療面も安心できる環境であること、時差もないこと、気候が温暖であること、英語が母国語であり、親日国であることがあげられ、その中でもメルボルン、パースについては、多民族・多文化としとして、文化の多様性を体感できること、豊かな自然に囲まれていること等が選定の理由となる。 現地校の選定については、各都市 2 校の派遣を予定しており、メルボルンの現地校においては、日本語教育に力を入れている、地域の住民が積極的に学校行事に参加する、地域との連携が取りやすい学校を選定している。パースの現地校においては、生徒の学習能力を伸ばす教育プログラムや、音楽、トライアスロンなどの特別プログラムが用意されている学校を選定している。 ホームステイの選定基準については、現地のコーディネーターが一件ずつ面接をして、家族構成や家庭環境、参加者が滞在する部屋の環境などを地チェックしてホストファミリーとしてふさわしいかを判断している。 小学生に対する配慮に本事業で始めて親元を離れる児童が大半であることを考慮し、自分のことは自分でできるようにすること、自分の気持ちを表現できるようになることが大事であると考え、引率教員や添乗員においては児童の自主的な成長を支える立場として介入することが必要である。中学生に対しての配慮としては今回の派遣が将来を考えるきっかけとなるよう、派遣だけを目的と考えず、帰国後の目的意識を明確にすることが大事であると考え、生徒の自主性を重んじながらメンターとしてサポートしていく。 **事業実施までのスケジュールについて** スケジュールについては、中学生の事前研修として、都内で学ぶ留学生との事前交流、また事前学習として海外留学生活ガイドブックを利用して、事前研修の充実を図る。 小学生コースの旅程については、二日目のメルボルン到着から半日市内観光を行う。二日目の午後から八日目まで現地学習を行う。 中学生コースの旅程については、二日目から八日目まで現地学習を行う。九日目に、カーティン大学にて市内観光を行う。 **緊急時の対応・危機管理について** 海外の学校交流プログラムの経験が豊富な添乗員をアサインする。現地と日本との連絡においては、添乗員を基本とし、引率の教員や教育委員会、日本の事務局とで的確に状況を判断し、最善の対処をする。現地添乗員と

	日本の事務局の対応は24時間体制とし、現地オペレーターとも連携し、緊急時対応を構築する。 　ホームステイ先でのトラブルについては、参加者とホストファミリーの状況を客観的に見ることができる現地コーディネーターが児童・生徒とホストファミリーの間に入り問題解決にあたる。 　現地においては、トラブルを未然に防ぐため、各学校に１名のコーディネーターを配置し､2日に１回もしくは毎日児童･生徒にヒアリングをして、悩みを引き出します。
	＜応募事業者②の質疑応答＞
A委員	中学校の大学訪問に対して小学校の訪問はどのように自立性を促せると考えているか。
事業者②	⇒小学校に関してはメルボルンの文化や歴史を知る機会としてのプログラムを考えているが、今後、協議のうえで必要があれば中学生のように今後の目標設定として扱える大学訪問等よりよいプログラムを考えていく。
C委員	見積書の航空運賃、ホテルの宿泊費の金額に間違いはないか。
事業者②	⇒相場の価格を基に算出しているため間違いはない。
E委員	男子家庭の数が男子の参加者よりも多く集まった場合、女子生徒が男子家庭へ行くという認識でよいか。
事業者②	⇒資料の記載ミスであり、女子生徒が男子家庭に行くことはなく、必ず同性でマッチングするようにする。
D委員	ホームステイの選定にあたっては実際にオーストラリアにいるスタッフが現地に足を運び、選定する認識でよいか
事業者②	⇒現地スタッフ、在外法人との連携のうえで選定をしていく。
B委員	この海外派遣では引率する小・中学校の教員にとってはどのような学びがあるか。
事業者②	⇒現地の学校の先生との交流を設け、将来的な発展へとつなげていければよいと考えている。
B委員	教員の発展とは具体的にどのようなことか。
事業者②	⇒教育委員会の方であらかじめテーマ等をもらえればテーマに基づいて現地の学校に持ちかけて交流を図りたいと考えている。
B委員	カーティン大学でのSTEM教育では具体的にどのようなプログラムを子ども達は体験できるか。
事業者②	⇒具体的な内容はこれから詰めていくところであるが、半日程度で発展途上国の住人を浮き桟橋を増設し救うプログラムや、化学物質マジックショーといった頭だけでなく手や足も動かして参加できるプログラムを考えている。
F委員	引率する教員のすべてが英語に堪能なわけではない。危機管理の管理からもそうだが、現地校との接点をセッティングした場合でもなかなかコミュニケーションが取れないような懸念も考えられるがそこについての具体的な対応としてはどうするか。
事業者②	⇒現地のコーディネーターを必ず学校ごとに配置をし、なおかつ引率の先

	生の近くにスタッフを配置し、先生方のご要望に応えていきたいと考えている。
E 委員 事業者②	航空機のトラブルで便の変更があった場合でも現状の見積金額で行えるのか。 ⇒行うことができる。 **〈応募事業者②退室＞** **【各委員からの審査講評】** **事業者①について** ・実績に基づき具体的な提案がされていた。 ・中学校のプログラムの内容について、もう少し深く教育内容をもったプログラムになっている方がよかった。 ・緊急時の対応が具体的かつ安心できる内容であった。 ・派遣児童の意識の醸成について具体的に述べられていた。 **事業者②について** ・資料に不確定要素が多く質問の答えに不安が残ることが多かった。 ・プレゼン用の資料を別途用意していてわかりやすかったが、内容について充分に実施できるかが不安だった。 ・港区の意向を受けて積極的に事業内容を検討している点が良かった。 **【事業候補者の決定】** **・事業者①を事業候補者とすることに決定した。** **【その他】** ・見積額の妥当性について、専門的なところで考えないと審査の基準に影響がでてしまうと感じた。